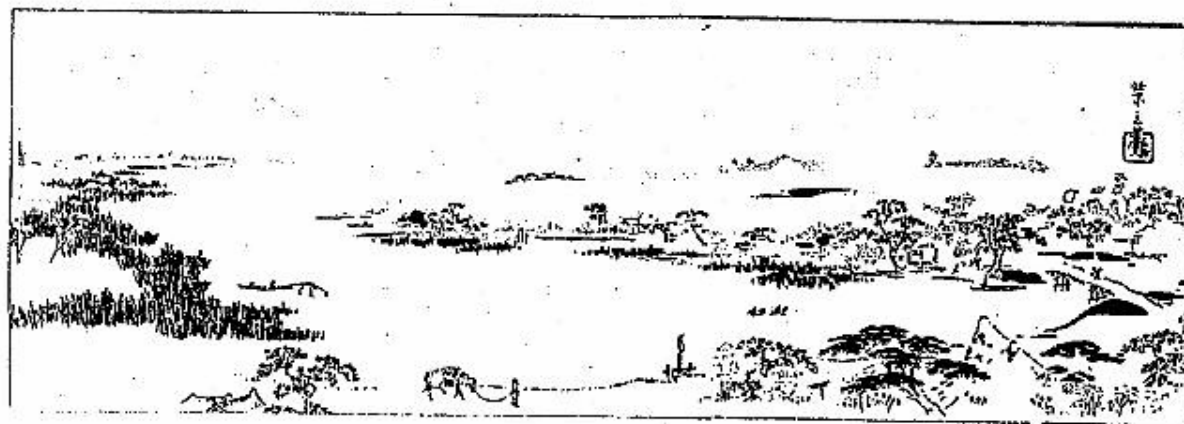


第103回
越谷市郷土研究会研究発表会
資 料

テーマ 鳥文斎細田栄之の
『瓦曾根溜井図』

～江戸期に描かれた瓦曾根溜井図による

当時の溜井付近の様子とその変遷～



と き 平成3年8月25日(日)

13:00～15:00

ところ 宅建(たっけん)会館3階会議室

発表者 越谷市郷土研究会理事 加藤幸一

越谷八景について

『越谷八景（はっけい）』は瓦曾根溜井周辺に設定されている。そこで『瓦曾根溜井図』の説明に入る前に、『越谷八景』について紹介する。

これは、明治期の越谷町の漢詩人山本梅塘（ばいとう）が、中国の瀟湘（しょうしょう）八景や日本の近江八景などにならって設定したものである。八景とは次の通り。

- ①瓦曾根の帰帆・・・瓦曾根溜井の松土手で荷の積み替えが終わって上流に帰ろうとしている空船と周囲の溜井の情景。
- ②水神の落雁・・・溜井内の小島にあった水神を祭る祠と空から舞い降りてくる雁の情景。
- ③東福寺の秋月・・・東福寺とその寺の松林にかかる秋の月の情景。
- ④久伊豆の暮雪・・・越ヶ谷の久伊豆神社とその参道に降る暮れ方の雪景色。
- ⑤柳原の夜雨・・・柳の茂っていた河原（現在の柳町あたり）に降る夜の雨の情景。
- ⑥大相模の晴嵐・・・大相模の不動尊とその周囲に生い茂っていた大木に立ち込める晴嵐の情景。
- ⑦寺橋の夕照・・・元荒川にかかる寺橋（現在は宮前橋と呼ばれる）周辺から東福寺に行く土手道に立ち並ぶ樹木に囲まれた草葺き屋根の家々などが夕焼けで川に映った情景であろう。
- ⑧天獄寺の晩鐘・・・天獄寺とその寺の暮れ六ツの鐘の鳴り渡る付近の趣。

鳥文齋細田榮之の『瓦曾根溜井図』

越谷市郷土研究会理事 加藤 幸一

1. 鳥文齋榮之について

江戸時代の天明から寛政年間（1781～1801）にかけてと思われる作品で、一部彩色を施した水墨画である。鳥文齋（ちょうぶんさい）榮之（えいし）が、瓦曾根（かわらぞね）村の名主である中村家に遊びに来たときに瓦曾根溜井（ためい）の景観にいたく感動して描いたものであろう。榮之は喜多川歌麿・鳥居清長と並ぶ天明・寛政期の三大浮世絵師に数えられている。線の細かい気品のある優美な美人画を得意とし、風景画を描いたものとしては珍しいという。

昭和50年（1975）5月2日に越谷市によって有形文化財に指定される。のちこの絵は瓦曾根の中村家（故、祐彦氏）から寄贈されて、越谷市役所市長室に飾られ、現在は越谷市立図書館に保管されている。

絵そのものの大きさは、横127.4cm（上）・127.6cm（下）、縦44.2cmである。

2. 瓦曾根溜井図の情景について 向かって右

右端の上には、榮之の落款が見られ「榮之筆」との自筆の署名と印（朱印）が押されている。

落款の向かって左下には、白に着色された帆のみが描かれている二艘の帆船（上部には帆柱の先端も見られる）が見られる。上流から運ばれて来た船荷を、松土手と呼ばれる中土手の南岸で移し変えて松土手の北岸に陸づけされた船に積まれ、下流の中川を通り江戸に送られたのである。

右端の中央には、元荒川（葛西用水）を渡す土橋が松土手に架かっているのがわかる。この橋の上に松土手に向かって渡っている人が描かれ、すぐ下流には一艘の小船が浮かぶ。この橋は、昭和30年代まであった欄干のない土橋「平和橋」（もと、「瓦曾根橋」と呼んだ）にあたる。

右端下には、民家の屋根らしきものが見られる。

中央

向かって右端から中央にかけて、松や船荷を積み降ろしする河岸場（かしば）関係の建物が見られる松土手（松の植えられた中土手）があり、その岸辺には芦が生えている。

中央には、満々と水をたたえているであろう溜井の水面の上を西に飛ぶ白鷺（白に着色）が2羽見られる。また、四ヶ村（しかむら）用水の取水口である四ヶ村用水坑（いり）には白鷺（白に着色）が1羽止まっている。

向かって右手前には、瓦曾根村の稲荷社の鳥居（朱に着色）とその本殿の屋根（妻入りの部分が朱に着色）が見られる。最手前の大きな松（緑に着色）は中村家のものであろう。

この松の向かって右横には、中村家の屋根と思われるものが大きく描かれている。

柴之は、鳥居と屋根の向きからすると、この松の手前上空あたりから見る瓦曾根溜井の風景を描いているのであろう。

中村家の屋根の先端の下の左側に、右方の瓦曾根橋より続く地面の線が描かれ、その線は中村家の松の木の中程を通り、四ヶ村用水の取水口を経て、画面左端まで続いている。

向かって左の中程には、水神（すいじん）社の森や鳥居の一部が描かれている小島が見られ、その右隣に仮メ切りの関桙が見られる。水神社は、明治期の越谷町の漢詩人山本梅塘（ばいとう）が設定した『越谷八景』の内の「水神の落雁」の水神社を指す。水神様のそばにあった『妙法水神』と刻まれた石碑が現在島根婦久（東越谷2-20-3）宅に祭られている。

水神社の対岸には、河畔砂丘で一段と小高くなった所にある東福寺（とうふくじ）の松林（緑に着色）が見られる。『越谷八景』の内の松林にかかる「東福寺の秋月」と言われた東福寺を指す。

また、松土手から対岸に続く土手道が対岸の小林村の土手道とぶつかったあたり、つまり水神社の対岸の右の方に一軒家が見られる。これは民家である会田家宅（東越谷2-2-3）であろう。

向かって左手前には、鞍を付けた荷馬（一部分に白に着色されている跡があるので白馬と思われる）とそれを引く頭に手ぬぐいをかけた男が東に向かっている様子が描かれている。

東福寺の松林の向かって右から水平にぼけて描かれているものは、東福寺の一段と高い砂丘より東に続く河畔砂丘上に成立した道の両側に見られる集落の様子で、小林村の民家の屋敷森群であろう。この古道は、現在の東越谷二丁目と三丁目との境の道から東越谷七丁目の中央を横切る道で、現在も古くからの農家の家がこの道なりに点在している。

向かって左

向かって左には、溜井に浮かぶ小舟が見られる。この小舟には人影が二つ見られ、向かって右の人は四ツ手網で魚をとっている様子がわかる。溜井で漁業を営んでいる漁師であろう。

また、それより右斜め上には、水神様の小島と対岸との間から棹をとって小船を西に漕いでいるのが見られる。

左端には、芦の繁る溜井の岸辺が描かれている。その最手前には、屋根

が二つ見られる。これは現在も越ヶ谷1丁目7番地にある八幡社関係の建物であろう。この八幡社は越ヶ谷町のはずれにあり、日光街道から土手道に向かう古道（越ヶ谷と瓦曾根との境をなしている）に面した所である。現在の八幡社のそば、土手道に近いところには、地元の人が『お不動様』と呼んでいるお堂が正面を日光街道から続く古道に向けてぼつんと残っている。正面には「成田山」と書かれた額が掲げられ、お堂の土手道側の側面の屋根に近いところには不動の絵馬や拝み絵馬が残されており、かつては不動信仰が盛んであった名残がわかる。江戸期にはこの辺に八幡社敷地内に置かれた神宮寺があったのであろう。このお堂はその名残と思われる。

左端上より（この辺りに民家の屋根が一つ描かれている）水平に中央方向にぼやけて描かれているものは柳原の岸辺であろう。『越谷八景』の内の柳の繁った河原に降る「柳原の夜雨（よさめ）」と言われた柳原を指す。

柳原の上空には、やや北よりの北北西に今も見られる日光の山（男体山）がぼやけて描かれている。

遠景には日光の山の他、筑波の山々がくっきりと見られたはずであるが、この絵では確認できない。筑波の山は越谷ではやや北よりの北東方向に見られ、この図では会田家東側上空に位置すると思われる。

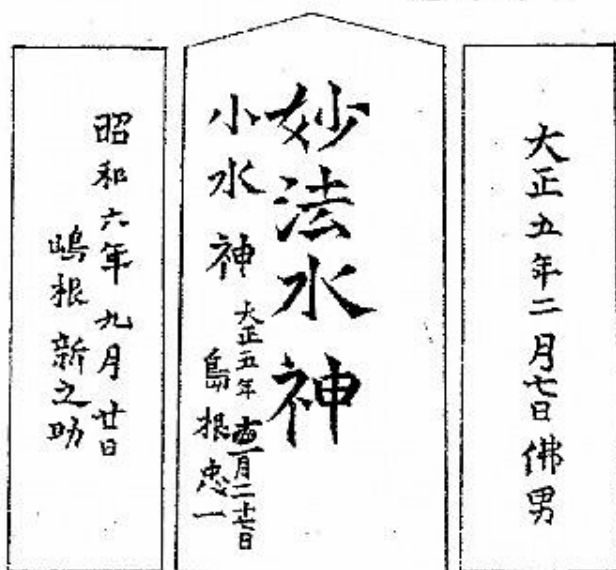
なお中村家から見ると、北の方角は水神社と東福寺との間であり、図のように東から会田家、東福寺、水神社と並ぶ位置関係は矛盾しない。

この栄之が描いた瓦曾根溜井図は構図もよく芸術的にもすぐれ、当時の様子を正確に伝える貴重な資料と言える。

※ 島根婦久（ふく）宅保管の水神様の石碑について

縮尺 1/5

水神社は昭和22年（1947）のカスリーン台風にも流されず残ったと言う。しかし、昭和38年（1963）頃からの瓦曾根溜井の用排水分離の大工事がきっかけとなって取り壊される運命となり、水神社とそばにあったこの石碑はお社とともに島根家宅敷地内（東越谷2-20-3）に移されたのである。お社の中には水神様の神体はなかったという。図は、現在も島根家に祭られ、保管されている石碑である。島根家の屋号は代々『忠兵衛どん』と呼ばれる。島根家の先祖がこの水神社を守り、この石碑も建てたものであろう。



高さ 31 cm 幅 15 cm

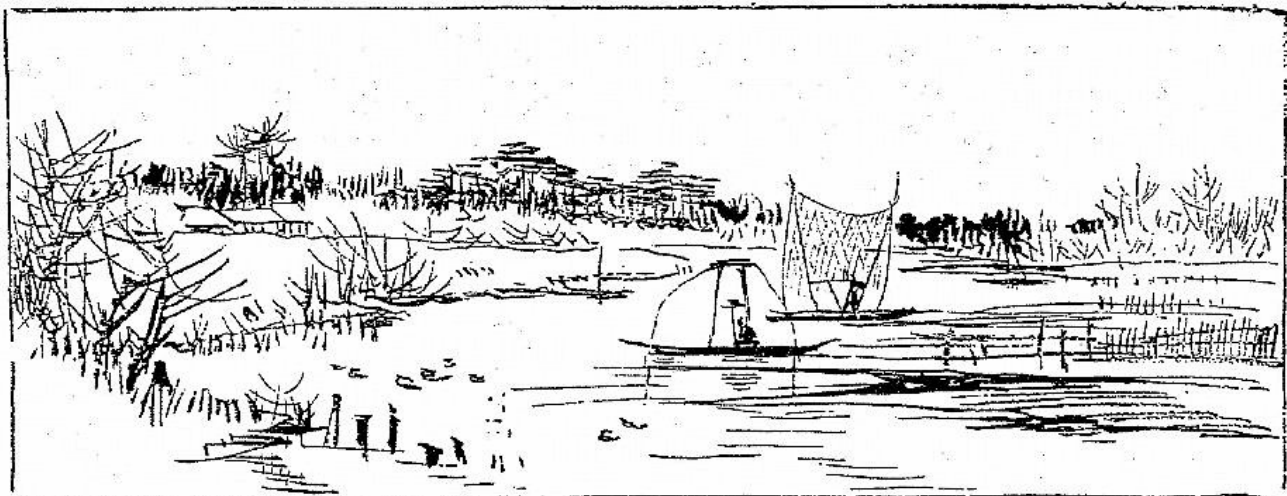
かわらそねためい

江戸時代後期の頃と思われる瓦曾根溜井の絵図

※わかりやすくするため、文字は楷書で書き、振り仮名を振り、川や用水は「三」で表した。西方村旧記よりとる。文化年間頃の絵地図か。

作成者 加藤幸一





越谷附近の春色

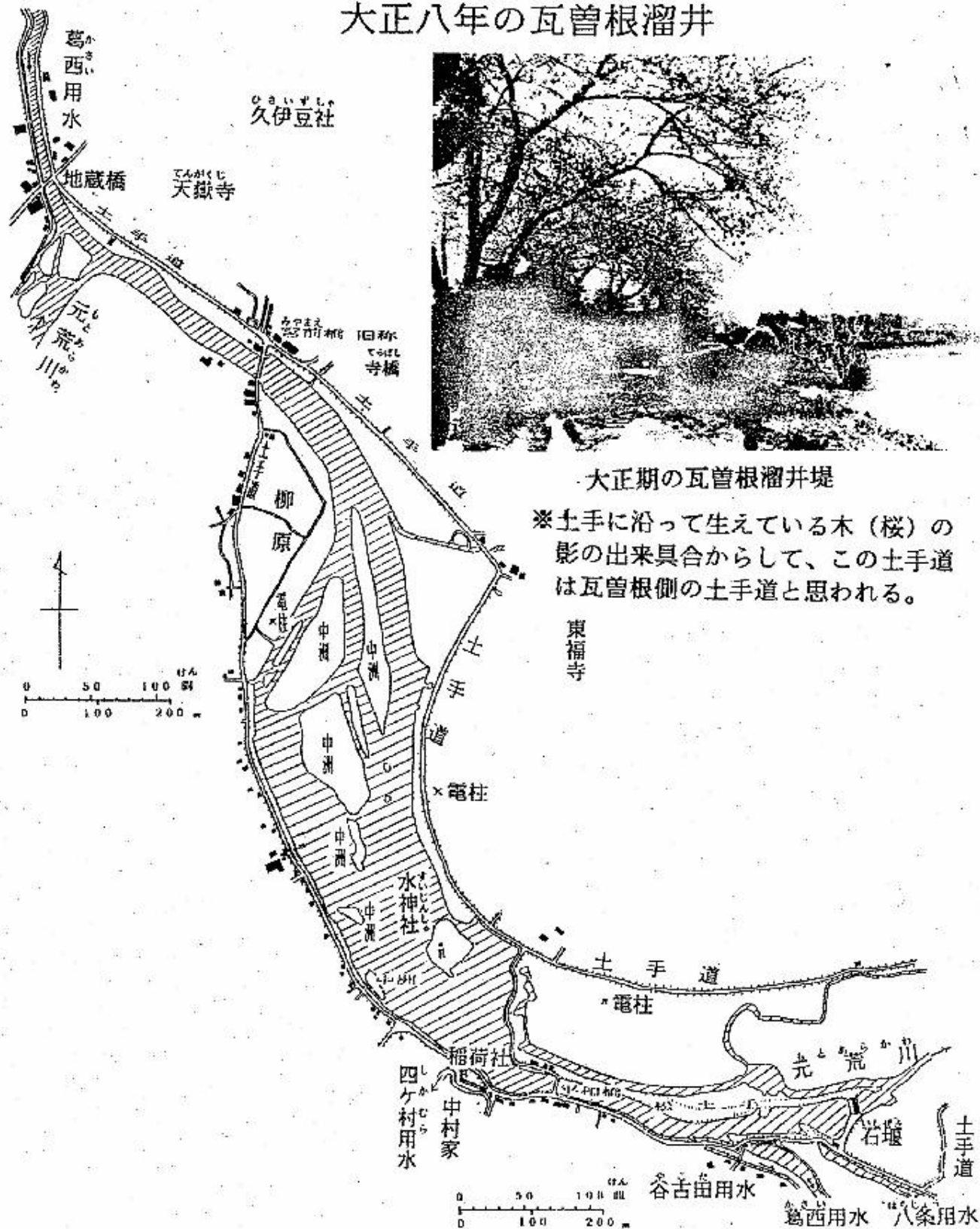
(東京より北の方凡六里半)

筑波山南、一犁の
 雨後、春は遍し東
 西南北の村、紅霞
 二十里、元荒川の
 一水、西北より來
 り、沖積平原の間
 を曲折し、水或は
 絶へ或は流れ、沙
 隄其の最も暖き處
 に羽泳し、漁人艇
 を蘆芽三寸の邊に
 停めて四ツ手網と
 曳く、獲る所は何
 ぞ、鰍魚、鯉魚、モ
 ロロ、ハハ。
 兩岸の楊柳、淡く
 して煙の如く、桃
 花其間より咲發
 し、眞個に一輪の
 錦繡園。
 花外の茅屋數椽、
 就きて麥飯、旬獻
 と煮しむべし、
 一碗の送茶と啜る
 も亦佳。
 嗚呼何にが故ぞ名
 奔利走の間に周旋
 する、繁々役々、
 以て人生を了らん
 とする、此の天
 地の大觀至樂と如
 何せんとする。
 不折齋

これは、志賀重昂著「日本風景論」(第四版明治28年)の巻末に出て来る明治の画人中村不折(ふせつ)による『越ヶ谷付近の春色』。元荒川の春の様子を描いているが、広々とした川幅から多分「瓦曾根溜井」であろう。川にはかもめが八羽泳ぎ、二人の漁師が四ツ手網でそれぞれ漁をしている。当時、兩岸には柳が見られ、その間には桃の林もかいま見られたのであろう。

なお、下の紹介文の文頭『一犁の雨』とは「越谷市史二」によると、いっときの激しく降る雨であらうとしている。

大正八年の瓦曾根溜井



大正期の瓦曾根溜井堤

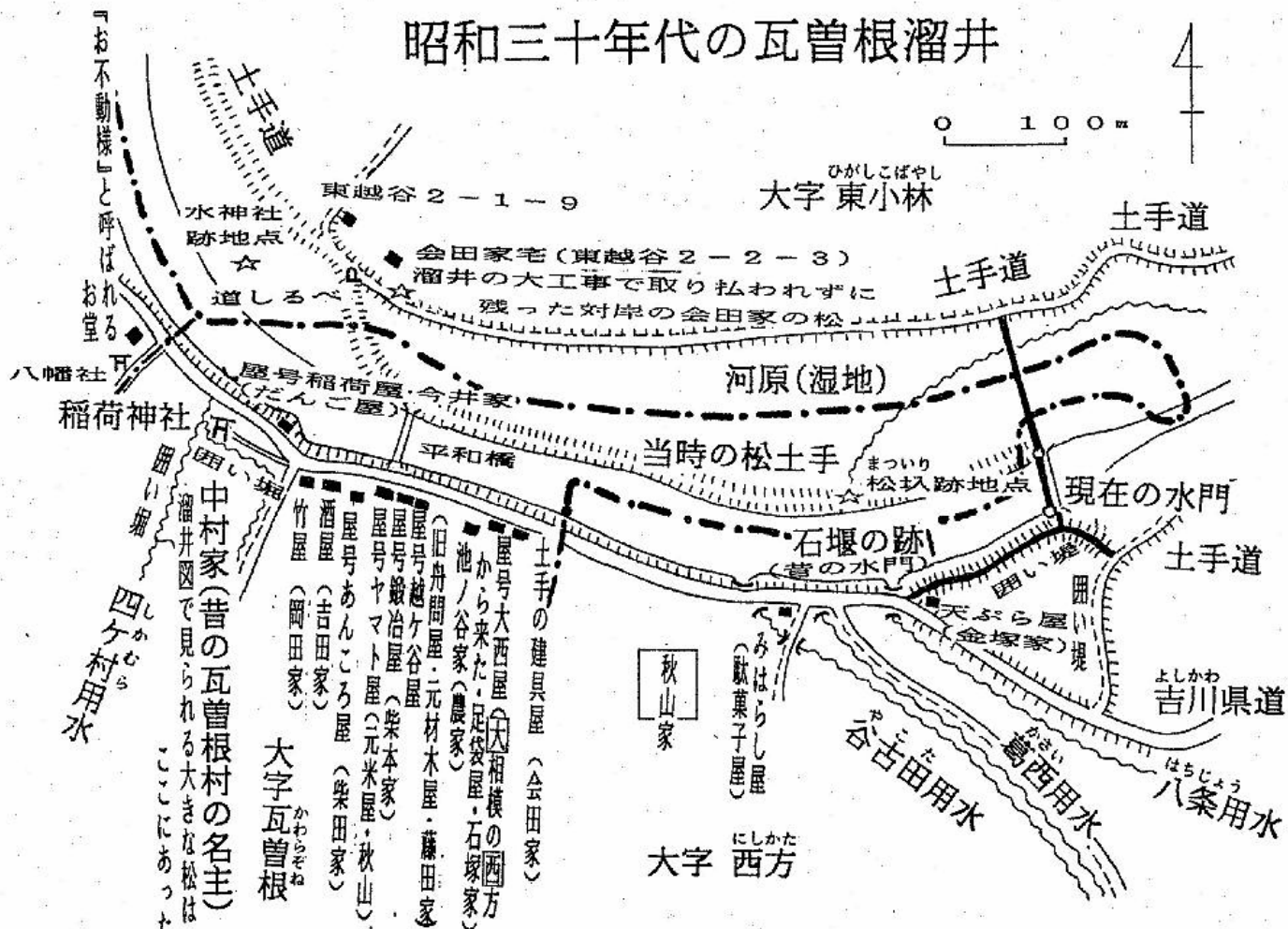
※土手に沿って生えている木（桜）の影の出来具合からして、この土手道は瓦曾根側の土手道と思われる。

東福寺

『埼玉縣北葛飾郡松伏溜井 葛西用水路ヲ経テ 同縣南埼玉郡瓦曾根溜井間
 現状図』(大正八年七月測量製図 鑑定人 木邑富蔵 坂本茂一郎)のうち
 第三号の地図をもとに作成

- 6 - 作成者 加藤幸一

昭和三十年代の瓦曾根溜井



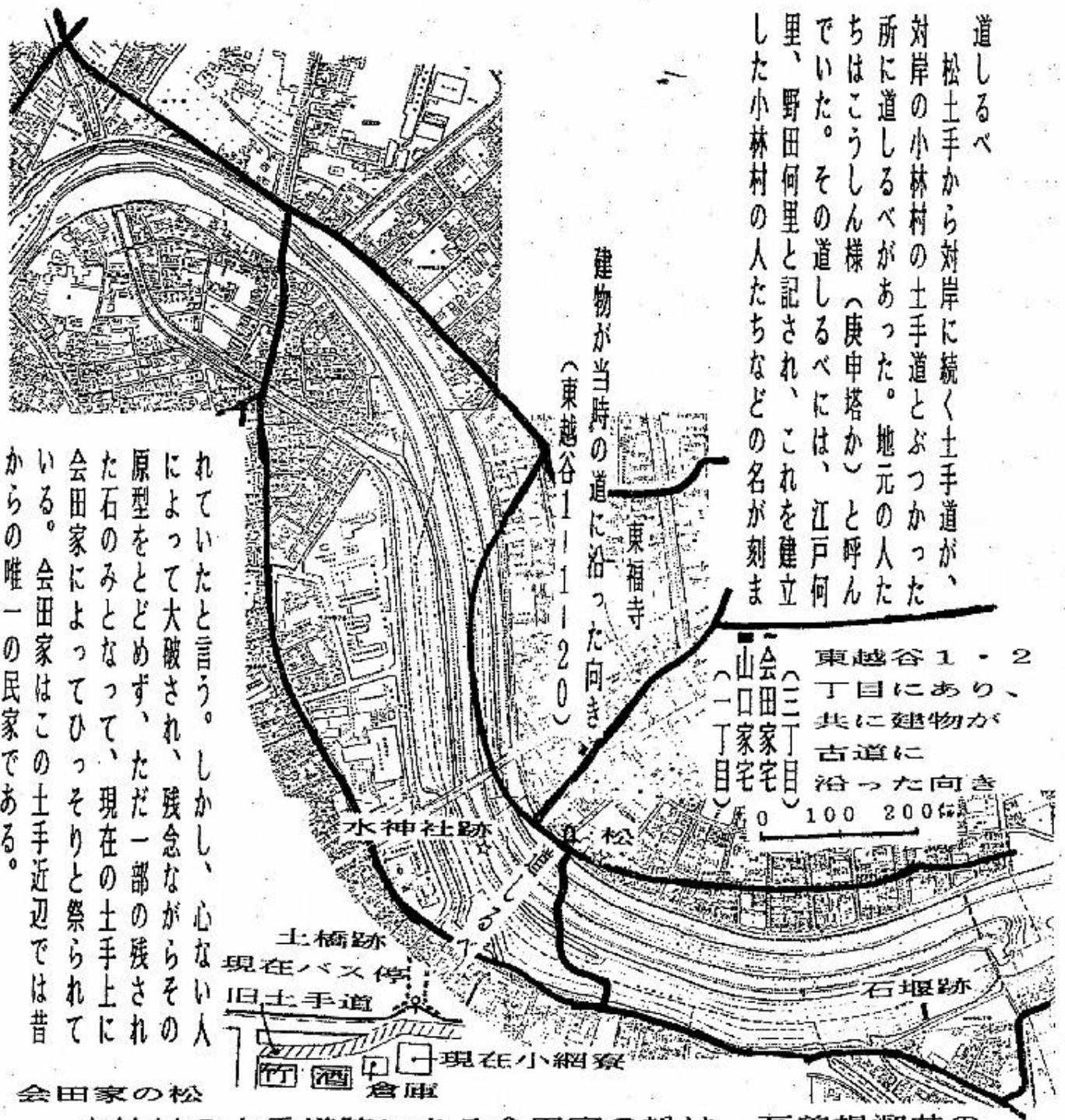
二万五千分の一の地形図『越谷』(昭和24年頃)をもとに作成

現代の瓦曾根溜井

ゼンリンの住宅地図『越谷市』87年度版をもとに作成
——は、大正八年頃の土手道及び主な道（作成者 加藤幸一）

道しるべ

松土手から対岸に続く土手道が、
対岸の小林村の土手道とぶつかった
所に道しるべがあった。地元の人た
ちはこうしん様（庚申塔か）と呼ん
でいた。その道しるべには、江戸何
里、野田何里と記され、これを建立
した小林村の人たちなどの名が刻ま



建物が当時の道に沿った向き
(東越谷1-1-20)

東越谷1・2
丁目にあり、
共に建物が
古道に
沿った向き
100 200

れていたと言う。しかし、心ない人
によって大破され、残念ながらその
原型をとどめず、ただ一部の残され
た石のみとなって、現在の土手上に
会田家によってひっそりと祭られて
いる。会田家はこの土手近辺では昔
からの唯一の民家である。

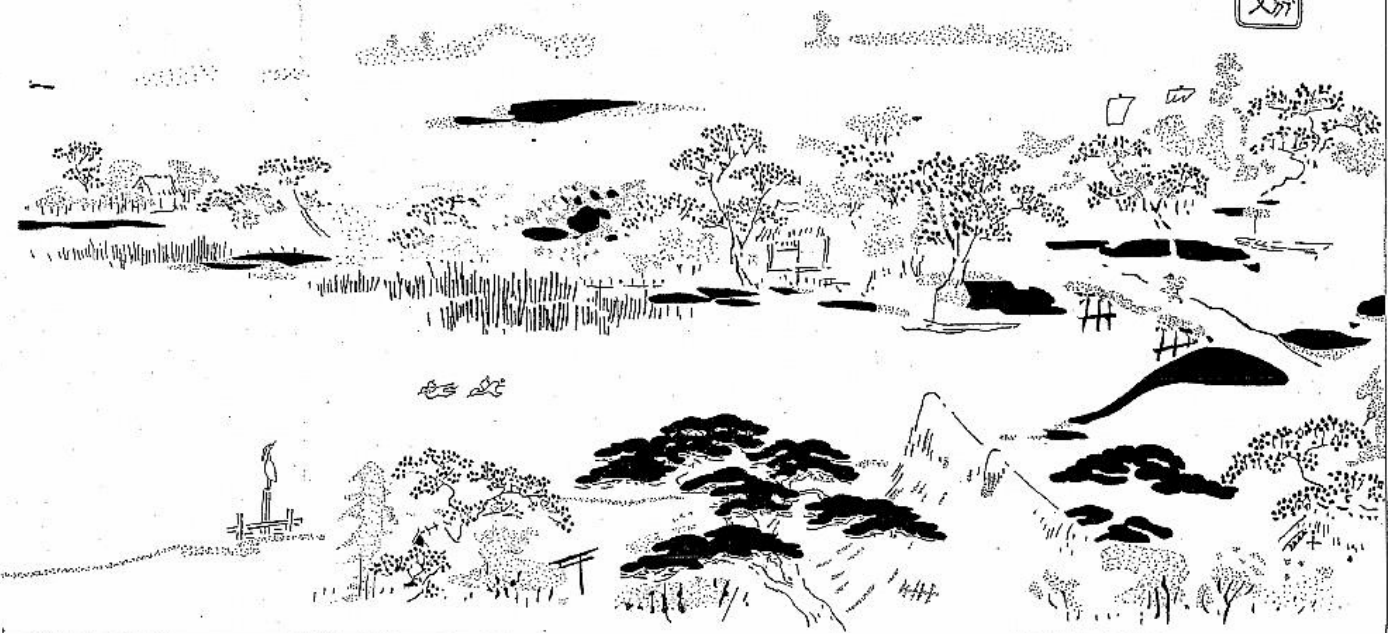
会田家の松

小林村の土手道脇にある会田家の松は、瓦曾根溜井の
用排水分離の大工事によって取り払われる運命にあった
が、越谷市行政のはからいで1本のみ今日まで残ること
になった。

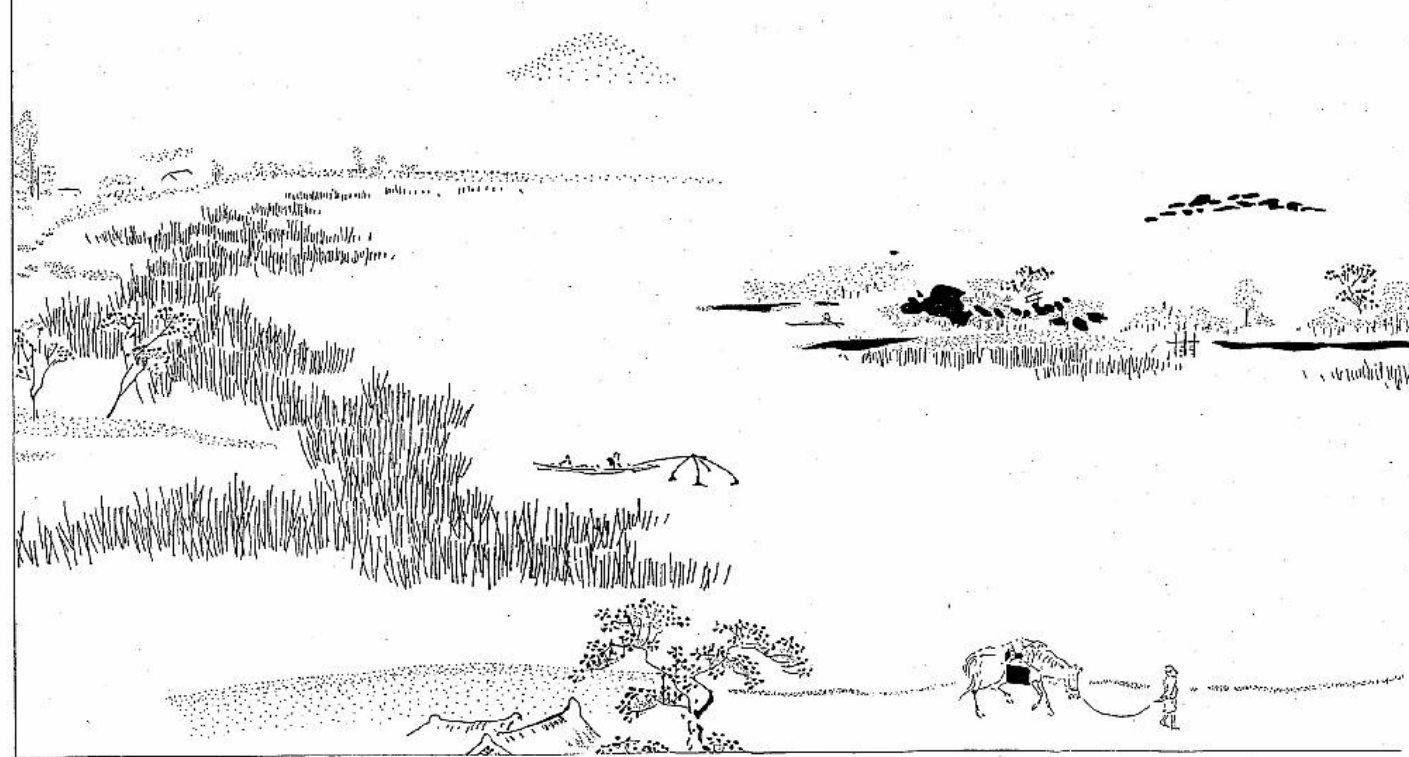
鳥文齋栄之の『瓦曾根溜井図』 (向かって右)

実物を元にできるだけ正確に模写。 縮尺 1/2 。 製作者 越谷市郷土研究会 加藤幸一

栄之
鳥文齋



鳥文齋栄之の『瓦曾根溜井図』 (向かって左)



鳥文齋栄之の「風景画」市に寄贈する

五代目中村彦左衛門重梁が隠居して、葛西領寺島村（現墨山区東向島）で、「菊のや」という会席料理屋を經營している時に浮世絵師鳥文齋細田栄之と知り合ったのでしょうか。当時、栄之は瓦會根村の中村家にしばしば遊びに来ていました。

そこで栄之は水郷の地越谷、とくに瓦會根溜井の景観にうたれ画筆をとったのが、上の写真「瓦會溜井風景画」です。栄之はこの絵を中村家に記念に残していきます。

この絵は昭和四十年、十一代中村裕彦が越谷市に寄贈しました。

『武蔵国瓦會根村中村家の歴史』

——定住三百五十年祭によせて——より

（著者 中村家十二代当主中村智彦・昭和六十年三月二十四日発行）

越谷市郷土研究会紹介

昭和40年(1965)3月に発足して以来、地道な活動ながら息長く越谷の文化の向上に尽くし、今日に至る。

1. 役員紹介

会長(小島 誠) 副会長(石塚吉男・山田政信)
常任顧問(木村信次) 顧問(竹内 誠・大村 進)
理事18名(省略) 幹事長(谷岡隆夫) 幹事(宮川 進)
監事(上郷千春 吉田敏子)

2. 活動内容

※下記のア・イについては『広報こしがや』に前もって掲載され、一般市民対象に参加希望を募る。

ア. 研究発表会

年間3回(6・8・1月)、第4日曜日の午後。
第1回の研究会発表会は、昭和40年4月24日、
大野伊右衛門会長(当時)の「方言について」である。

イ. 史跡めぐり

研究発表会と市民文化祭のある月(6・8・11・1)を除く年間8回
(4・5・7・9・10・12・2・3月)、第4日曜日。
越谷駅または南越谷駅にて集合・解散。

第1回は昭和41年2月27日の「大相模の不動尊」でした。

ウ. 会報『古志賀谷』の発行

創刊号(復刻版有り)は昭和47年3月31日発行、B5版53頁。
前回は昭和63年8月、第6号刊行。来年度第7号刊行予定。

エ. 市民まつり参加

オ. 市民文化祭参加

カ. 古文書クラブの活動

毎月第1・第3土曜日 北越谷公民館

ク. その他

昨年度(平成2年度)は『けやき学校歴史散歩教室』
全13回講師派遣(老人福祉センターけやき荘)
来年度、南越谷公民館に講師派遣予定(全3回)